

新規上場申請のための四半期報告書

(第9期第2四半期)

自2022年6月1日
至2022年11月30日

株式会社Globe

表紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	3
1 事業等のリスク	3
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
3 経営上の重要な契約等	5
第3 提出会社の状況	6
1 株式等の状況	6
(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	7
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(5) 大株主の状況	8
(6) 議決権の状況	8
2 役員の状況	9
第4 経理の状況	10
1 四半期財務諸表	11
(1) 四半期貸借対照表	11
(2) 四半期損益計算書	13
第2 四半期累計期間	13
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	14
2 その他	19
第二部 提出会社の保証会社等の情報	20

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	新規上場申請のための四半期報告書
【提出先】	株式会社東京証券取引所 代表取締役社長 岩永 守幸殿
【提出日】	2023年5月11日
【四半期会計期間】	第9期第2四半期（自 2022年9月1日 至 2022年11月30日）
【会社名】	株式会社Globee
【英訳名】	Globee Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 幾嶋 研三郎
【本店の所在の場所】	東京都港区東麻布一丁目7番3号 第二渡邊ビル4階
【電話番号】	03-6230-9016
【事務連絡者氏名】	取締役CFO 指田 恭平
【最寄りの連絡場所】	東京都港区東麻布一丁目7番3号 第二渡邊ビル4階
【電話番号】	03-6230-9016
【事務連絡者氏名】	取締役CFO 指田 恭平

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第9期 第2四半期累計期間	第8期
会計期間	自2022年6月1日 至2022年11月30日	自2021年6月1日 至2022年5月31日
売上高 (千円)	443,121	709,387
経常利益 (千円)	103,827	62,355
四半期（当期）純利益 (千円)	68,723	54,410
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—
資本金 (千円)	32,476	32,476
発行済株式総数 (株)	4,886,000	4,886,000
純資産額 (千円)	168,897	100,173
総資産額 (千円)	703,676	648,869
1株当たり四半期（当期）純利益 (円)	14.07	11.14
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益 (円)	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—
自己資本比率 (%)	24.0	15.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	84,103	226,335
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△53,414	—
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△23,328	△55,552
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高 (千円)	457,749	450,388

回次	第9期 第2四半期会計期間
会計期間	自2022年9月1日 至2022年11月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	7.87

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
3. 当社は、第8期第2四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、第8期第2四半期累計期間に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
4. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
5. 1株当たり配当額及び配当性向については、配当を実施していないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または有価証券届出書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当社は、前第2四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析は行っておりません。

(1) 財政状態の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における総資産につきましては、前会計年度末に比べ54,806千円増加し、703,676千円となりました。これは主に、無形固定資産が50,035千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債につきましては、前会計年度末と比べ13,916千円減少し、534,778千円となりました。これは主に、未払法人税等が21,010千円増加した一方で、長期借入金金が23,384千円減少、買掛金が12,127千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産につきましては、前会計年度末と比べ68,723千円増加し、168,897千円となりました。これは主に、四半期純利益68,723千円によるものであります。

(2) 経営成績の状況

当第2四半期会計期間につきましては、abceedのサービス改善と販売拡大に注力し、一般ユーザー、法人等の有料会員数の獲得を図ってまいりました。第2四半期末時点において、有料会員数は6.1万人となっており、前会計年度末時点から増加しております。第2四半期会計期間中は、2022年10月に実施した一般ユーザー向けのProプラン半額キャンペーンによる新規の有料会員数の獲得が好調であったこと、企業・大学等の法人向けの導入が拡大したことなどの要因により、概ね計画通りの有料会員数を確保しております。法人向けについては、企業・大学等向けの営業体制を強化したことが奏功し、前会計年度末時点から累計導入数を伸ばし、第2四半期末時点で累計241件まで伸長しております。中学校・高校では現場での活用が定着しており、学校現場からの要望、フィードバック等を踏まえてサービス改善を図りつつ、2023年4月からの新規導入及び既存利用校の更新を目指して、提携先の教科書出版社と協働して、販売の拡大とフォローアップを図っております。abceedのサービス改善においては、ユーザービリティの向上に資する機能改善や品質の向上に取り組んだほか、当社の解説・講義動画コンテンツや当社独自のTOEIC®模擬試験や単語帳などのオリジナルコンテンツの開発に注力いたしました。さらなる多様な、他分野のコンテンツに対応するべく、コンテンツホルダーとの協議を進めるなどの取組みを実施してまいりました。

このような状況のなか、当第2四半期累計期間の業績は、売上高443,121千円、営業利益104,523千円、経常利益103,827千円、四半期純利益68,723千円となりました。

	ユーザー数	有料会員数 (期末時点) (注1)	対応タイトル数
2020年5月期末	116.5万人	1.2万人	243
2021年5月期1Q末	126.9万人	1.5万人	266
2021年5月期2Q末	141.7万人	2.0万人	303
2021年5月期3Q末	158.8万人	2.3万人	336
2021年5月期末	179.7万人	3.2万人	380
2022年5月期1Q末	195.8万人	3.3万人	396
2022年5月期2Q末	213.5万人	3.8万人	421
2022年5月期3Q末	233.1万人	4.5万人	476
2022年5月期末	257.6万人	5.7万人	550
2023年5月期1Q末	276.0万人	5.6万人	616

	ユーザー数	有料会員数 (期末時点) (注1)	対応タイトル数
2023年5月期2Q末	295.3万人	6.1万人	636

	導入法人数	
	期中利用数 (注2)	累計 導入数
2020年5月期末	4件	4件
2021年5月期末	74件	75件
2022年5月期末	177件	203件
2023年5月期2Q末	170件	241件

(注1) 有料会員数に関する季節性要因を補足いたします。1Qは、4Qにおける4月に実施するProプラン割引キャンペーンによる大幅増による反動減、英語学習者の学習意欲等の変動による年間を通じた閑散期であることを要因として増加幅は相対的に少ない、もしくは若干の減少となる傾向にあります。4Qは例年4月に一般個人向けのProプラン割引キャンペーンを実施するため大幅に会員数を増加させる傾向にあり、加えて学校（中学校・高校）における新年度の新規会員数が追加されます。

(注2) 期中に有料で利用された法人数を記載しております。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、前会計年度末に比べて7,361千円増加し、457,749千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は84,103千円となりました。これは主に、税引前当期純利益103,827千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は53,414千円となりました。これは、無形固定資産の取得による支出52,323千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は23,328千円となりました。これは、長期借入金の返済による支出23,328千円によるものであります。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当第2四半期累計期間において、会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定について重要な変更はありません。

(5) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(6) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期累計期間において、当社が認識する優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(7) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当第2四半期累計期間において、当社が定めている財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について重要な変更はありません。

(8) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数（株） (2022年11月30日)	提出日現在発行数（株） (2023年1月 日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,886,000	4,886,000	東京証券取引所 (グロース)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら制限のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株であります。
計	4,886,000	4,886,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高 (千円)
2022年6月1日～ 2022年11月30日	—	4,886,000	—	32,476	—	30,476

(5) 【大株主の状況】

2022年11月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式（自己 株式を除く。）の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
幾嶋 研三郎	東京都港区	4,000,000	81.87
NVCC8号投資事業有限責任組合	東京都千代田区丸の内二丁目4番1号	446,000	9.13
上赤 一馬	東京都港区	320,000	6.55
株式会社としすみ	東京都渋谷区渋谷3丁目10-5	96,000	1.96
株式会社SEKAISHA	東京都渋谷区渋谷3丁目10-5	24,000	0.49
計	—	4,886,000	100.00

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2022年11月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	—	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 4,886,000	48,860	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のな い当社における標準とな る株式です。なお、単元 株式数は100株です。
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	4,886,000	—	—
総株主の議決権	—	48,860	—

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2022年9月1日から2022年11月30日まで）及び第2四半期累計期間（2022年6月1日から2022年11月30日まで）に係る四半期財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

4. 最初に提出する四半期報告書の記載上の特例

当新規上場申請のための四半期報告書は、「企業内容等開示ガイドライン24の4の7-6」の規定に準じて前年同四半期との対比は行っておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年5月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	450,388	457,749
売掛金	104,638	101,041
前払費用	68,308	67,691
その他	0	244
流動資産合計	623,335	626,727
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	19,133	19,133
工具、器具及び備品	4,833	5,924
減価償却累計額	△7,893	△9,326
有形固定資産合計	16,072	15,730
無形固定資産		
ソフトウェア	—	45,586
ソフトウェア仮勘定	—	4,448
無形固定資産合計	—	50,035
投資その他の資産		
出資金	50	50
敷金及び保証金	1,200	1,200
長期前払費用	186	32
繰延税金資産	8,024	9,899
投資その他の資産合計	9,461	11,182
固定資産合計	25,533	76,948
資産合計	648,869	703,676

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年5月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	65,571	53,443
未払金	21,597	15,040
未払費用	8,667	9,834
1年内返済予定の長期借入金	46,656	46,712
契約負債	321,360	329,223
賞与引当金	14,675	19,002
未払消費税等	18,556	11,897
未払法人税等	15,968	36,978
その他	1,061	1,449
流動負債合計	514,115	523,582
固定負債		
長期借入金	30,030	6,646
資産除去債務	4,550	4,550
固定負債合計	34,580	11,196
負債合計	548,695	534,778
純資産の部		
株主資本		
資本金	32,476	32,476
資本剰余金		
資本準備金	30,476	30,476
資本剰余金合計	30,476	30,476
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	37,221	105,945
利益剰余金合計	37,221	105,945
株主資本合計	100,173	168,897
純資産合計	100,173	168,897
負債純資産合計	648,869	703,676

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年11月30日)
売上高	443,121
売上原価	230,654
売上総利益	212,467
販売費及び一般管理費	※ 107,943
営業利益	104,523
営業外収益	
受取利息	2
受取配当金	0
営業外収益合計	2
営業外費用	
支払利息	434
支払手数料	154
雑損失	110
営業外費用合計	698
経常利益	103,827
税引前四半期純利益	103,827
法人税等	35,103
四半期純利益	68,723

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前当期純利益	103,827
減価償却費	3,720
受取利息及び受取配当金	△2
支払利息	434
営業債権の増減額 (△は増加)	3,596
仕入債務の増減額 (△は減少)	△12,127
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	526
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	528
小計	100,504
利息及び配当金の受取額	2
利息の支払額	△434
法人税等の支払額	△15,968
営業活動によるキャッシュ・フロー	84,103
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△1,091
無形固定資産の取得による支出	△52,323
投資活動によるキャッシュ・フロー	△53,414
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△23,328
財務活動によるキャッシュ・フロー	△23,328
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	7,361
現金及び現金同等物の期首残高	450,388
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 457,749

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自2022年6月1日 至2022年11月30日)
給与手当	25,667千円
役員報酬	16,470
支払報酬料	12,155
広告宣伝費	11,174
賞与	7,586
減価償却費	1,432

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自2022年6月1日 至2022年11月30日)
現金及び預金勘定	457,749千円
現金及び現金同等物	457,749

(株主資本等関係)

当第2四半期累計期間（自 2022年6月1日 至 2022年11月30日）

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期累計期間（自 2022年6月1日 至 2022年11月30日）

当社の事業は教育サービス事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

	当事業年度 (自 2021年6月1日 至 2022年11月30日)
一時点で移転されるサービス	27,992
一定の期間にわたり移転されるサービス	415,129
顧客との契約から生じる収益	443,121
外部顧客への売上高	443,121

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自2022年6月1日 至2022年11月30日)
1株当たり四半期純利益	14円07銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益(千円)	68,723
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る四半期純利益(千円)	68,723
普通株式の期中平均株式数(株)	4,886,000
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	—

(注) 1. 在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023 年 4 月 28 日

株式会社 Globee

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士

藤本 浩巳

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士

島津 慎一郎

監査人の結論

当監査法人は、株式会社東京証券取引所の有価証券上場規程第 216 条第 6 項の規定に基づき、金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定に準じて、「経理の状況」に掲げられている株式会社 Globee の 2022 年 6 月 1 日から 2023 年 5 月 31 日までの第 9 期事業年度の第 2 四半期会計期間（2022 年 9 月 1 日から 2022 年 11 月 30 日まで）及び第 2 四半期累計期間（2022 年 6 月 1 日から 2022 年 11 月 30 日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社 Globee の 2022 年 11 月 30 日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第 2 四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上